

# 滑走防止バンド、その使いどきは？ 〜股関節脱臼を防止するために〜

釧路西部事業センター 阿寒釧路家畜診療所 獣医師 杉本 貢 紀

以前のかげはし(第26号・2019・5)で、牛の股関節脱臼が発生するリスクと、発生がある農場とない農場の飼養形態の比較を報告しました。まずおさらいすると、

股関節脱臼は、

- 初産牛が多い。
- 分娩後から分娩後1〜2ヶ月の泌乳最盛期前後の時期までに多い。
- 周産期疾病、肢・蹄病の病歴のあるものに多い。
- フリーストール農場で多い。
- フリーストール農場では飼養頭数が多いほど発生が多いが、タイストール農場では飼養頭数と発生頭数に目立った関係はない。
- タイストール農場において、牛を舎内外へ移動させる際

に発生があるかもしれない。

- フリーストール農場の初産牛で発生が多い。牛群内での立場・社会的順位が低いことと関係しているかもしれない。

次に、これを踏まえて、対策としてできそうなことが、

- ◇ 泌乳後期や乾乳期、分娩後、そして泌乳最盛期までに発生が多いことから、乾乳期から泌乳最盛期までスプリットガードなどの滑走防止バンドを装着する。
- ◇ タイストール農場でも肢・蹄に問題のある牛には分娩後からバンドを装着。

◇ フリーストール農場において、初産牛と肢・蹄に問題のある牛だけの群を作るな

ど、群構成の工夫。

- ◇ タイストール農場において、牛の出し入れをする際は、通路に石灰など滑り止めを敷く、牛を急に追わないなど気をつける。

そして、実際に対策を行った阿寒町のフリーストールの1農場の例を紹介します。

まず、この農場では、初産牛での股関節脱臼が多い気がするという印象があったようです。そして、以前のかげはしで報告した疫学調査の結果を踏まえ、初産牛での股関節脱臼を防止する目的で、1本あたり三千円程度の滑走防止バンドを50本購入し、分娩前3週から泌乳最盛期あたりまでの初産牛すべてに装着するという対策

を行いました。平成29年4月から始めて、1年間の調査を行いました。効果の評価は平成24〜28年度と平成29年度の滑走や肢腫れが原因で起立不能の廃用(3号廃用)となった頭数を比較しました。結果が(図1)です。棒グラフに示したように、平成24〜28年度では股関節脱臼を含む起立不能の廃用(3号廃用)の発生割合は右肩上がりに増加している傾向にありましたが、バンド装着後の29年度は減少しました。また、グラフの青色で示した初産牛での発生は0でした。

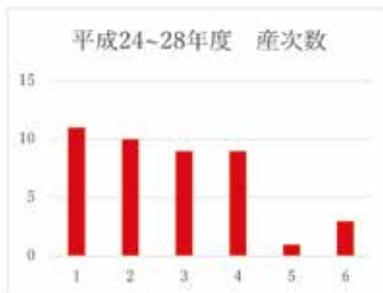
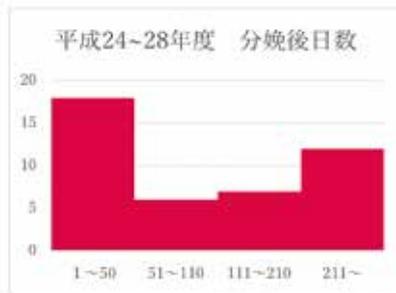
次に、平成24〜28年度と平成29年度の分娩後日数と産次数を比較しました(図2)。発生した分娩後日数は泌乳前期(1〜50日)に多い同じような傾向がみられました。これは、疫学調査の結果にもあったように、股関節脱臼をした牛で周産期疾病の病歴を持つものが多かったことと関係していると思われる。産次数をみると、24〜28年度は割と小さい産次で多かったですが、29年度では図1のグラフでも示したように初産牛で

の発生はありませんでした。今回は1年間の調査ではありませんでしたが、発生の多い初産牛において股関節脱臼だけでなく、滑走を原因とする廃用を0にすることができました。初期投資として1本三千円程度の滑走防止バンド50本の約15万円に見合う結果が出たのではないのでしょうか。

以上のことから、分娩前後から泌乳最盛期にかけて滑走防止バンドを装着することで、滑走・転倒・起立不能となることを減らせそうです。具体例として、フリーストール農場であれば、分娩前3週あたりのクローズアップ時に装着し、初回授精時や繁殖検診している農場であれば早期妊娠鑑定で妊娠(+)を確認した時にはずすというのがおススメです。今後は初産牛のみならずすべての産次の牛で装着し、起立不能による廃用件数の減少を目指したいと思います。

(図2)

(図1)



年度	成乳牛 加入頭数	起立不能の廃用頭数		発生割合
		初産牛	経産牛	
24	255	3	2	1.96
25	272	5	4	3.31
26	255	1	6	2.75
27	265	1	7	3.02
28	282	1	13	4.96
29	296	0	7	2.36

